

留学体験記

欧州でインターンシップを体験する「ヴルカヌス・イン・ヨーロッパ」に参加した
修士1年の和井内琴理さんに、現地での貴重な体験についてお話を伺いました。

ヴルカヌス・イン・ヨーロッパ（一般財団法人 日欧産業協力センター主催）

将来の日欧関係を担う若者育成のため、日本の理工系学生を対象としたプログラム。EU加盟国での語学研修4ヵ月ならびに、企業でのインターンシップ7ヵ月*に参加する。本学からは、2015～2022年度の間に7名が参加。

*新型コロナウイルス感染状況により、プログラムが一部変更となる場合がある。

物事はあまり難しく考えすぎない!なんとかなるさ!!の精神も大事

情報記録工学研究室 修士1年 和井内琴理さん(掛川西高等学校[静岡県]) TOEICスコア：970

【研修先企業／研修内容】

IDIADA AUTOMOTIVE TECHNOLOGY SA

2022年8月～2023年3月にかけて、自動車の設計・エンジニアリング・テスト・認証取得サービスを提供するIDIADAのパートレイン部門チャージングチームに派遣された。車両の安全性開発全般に関するパッシブセーフティエンジニアリングとテストサービスを提供し、顧客向けの開発プロジェクトにも参加。(2022年4月～7月の4ヵ月間は、現地の先生による語学研修をオンラインで毎日5時間受講し、スペイン語のスピーキングや文法を中心に学習。)

✖ ス페인でのインターンシップ内容を教えて下さい。

インターンシップ先は、自動車メーカーから依頼を受けた安全性に関するテストを実施し、自動車の検査をするIDIADAというスペインの会社でした。私は電気自動車と充電器の相互運用性のテストを実施するパートレイン部門のチャージングチームに派遣され、最初のうちは世界の充電器のブランドやケーブルの種類などの情報をリサーチしてまとめるマーケットスタディを任せられました。日本の自動車メーカーとの仕事を担当することもあり、会議に参加して、英語で議事録をまとめることもありました。

初日に上司から、「英語での会話は禁止だよ。」と言われ、最初の数ヵ月はとてもしんどい思いをしましたが、そのおかげでスペイン語でのコミュニケーションにも徐々に慣れていきました。

そして、電気自動車と充電器のコミュニケーションが、定められたプロトコルに従っているかを確認するテストのサポートから始め、充電中に停電が起こったらどうなるかなど、安全性に関するチェックを行いました。問題があれば自動車に原因があるのか、充電器の問題なのかなどを考察し、レポートをまとめました。研修に慣れてきた頃には、一人でテストを任せられるようになり、非常に嬉しかったことを覚えています。



スペイン派遣のヴルカヌス・プログラムメンバーで、皆の休暇を合わせてスペインのビルバオ(Bilbao)に行った時(左が和井内さん)。インターンシップの事や生活面で困った事、将来の夢など共有して、共に高め合えた最高の仲間です。

✖ 留学して感じたことや心境の変化について教えて下さい。

将来は英語の話せるエンジニアになりたいと思っていますが、インターンシップに参加する前は、エンジニアにとって一番必要なのは専門知識だと思っていました。しかし、実際に現場で動いてみると、もちろん専門知識は大事な要素ですが、それ以上にコミュニケーションや、チームワーク、信頼関係など、周りの人たちとうまく関わっていくことが、円滑に仕事を進めていくうえで

大切だと気が付きました。

現地では、チュニジア人、ギリシャ人、メキシコ人の留学生や現地のスペイン人学生とアパートメントシェアをして生活したのもいい思い出です。文化や宗教の異なるメンバーで熱い討論を交わしたり、お互いの国の料理を作って振舞ったりと、多様な価値観や、常識や考え方の違いを肌で感じ、世界は広い!と思いました。スペインでは、電車が時間通りに来ないなど、日本では当たり前なのが通用せず、最初はストレスを感じましたが、慣れてくると、「物事をなんでも難しく考えてはいけない!なんとかなるさ!!」と、自分の考え方や気の持ちようを柔軟にしていこうと思えるようにもなりました。



歴史好きなルームメイトとギリシャ旅行に行き、遺跡巡りをしたことも。

✖ 今後のビジョン

入学前から、大学では英語を頑張ると決めていたので、独学でTOEIC対策をして、それなりにTOEICの点数もよかったです。学部2年の時に海外英語演習に参加して1ヵ月フィリピンに行き、全く英語が話せないと気付きショックを受けました。

それからは、iPlazaを積極的に活用し、海外ドラマを見たり洋楽を聞いたり、英語に触れる時間を増やしました。今回の留学中に、ヨーロッパを一人で旅行しましたが、英語でのやり取りに困ることはなく、自分にもできるんだ、と自信になりました。

スペインでインターンシップに参加してみて、世界から見た日本の自動車メーカーの圧倒的な存在感と高い評価を再確認し、日本の底力を改めて認識することができました。だからこそ、日本の企業で英語の話せるエンジニアとして活躍し、日本と海外の懸け橋となる存在になりたい、それが今の私の夢です。